

バッハの
歓喜が炸裂

樋口隆一 指揮 明治学院バッハ・アカデミー

Ryuichi Higuchi, dirigent & Bach Akademie Meiji Gakuin Tokyo

バッハ・カンタータ演奏会

Johann Sebastian Bach: Kantaten BWV 157, 117, 192, 97

2019年8月31日(土)

14:00開演(13:30開場)

Saturday, 31 August, 2019 at 14:00

会場:  紀尾井ホール
Kioi Hall 東京都千代田区紀尾井町6番5号

カンタータ《祝福したまわずば、われ汝を離さず》BWV157
Kantate "Ich lasse dich nicht, du segnest mich denn", BWV 157

カンタータ《至高の善に讃美と栄光あれ》BWV117
Kantate "Sei Lob und Ehr dem höchsten Gut", BWV 117

カンタータ《いまぞ、もろびと、神に感謝せよ》BWV192
Kantate "Nun danket alle Gott", BWV 192

カンタータ《わがすべての行いで》BWV97
Kantate "In allen meinen Taten", BWV 97

樋口隆一(指揮)

明治学院バッハ・アカデミー合唱団・合奏団(古楽器使用)

光野孝子(ソプラノ) / 庄司祐美(メゾ・ソプラノ)

大島 博(テノール) / 土田悠平(バリトン)



明治学院バッハ・アカデミー合唱団・合奏団

©Lasp Inc.



光野孝子(ソプラノ)



庄司祐美(メゾ・ソプラノ)



大島 博(テノール)



土田悠平(バリトン)

5/15 チケット発売開始

入 場 料 (各税込)

全 指 定 席

S席 ¥6,000 A席 ¥4,000 学生 ¥1,000

チケットお申込み

イープラス <http://eplus.jp/>

チケットぴあ 0570-02-9999 (音声自動応答・Pコード:000-000)
<http://t.pia.jp> (PC&携帯)

紀尾井ホール チケットセンター 03-3237-0061 (10:00~18:00 日・祝休)
<http://www.kioi-hall.or.jp/>

主催:明治学院バッハ・アカデミー <http://bachakademie.web.fc2.com/>

助成:公益財団法人朝日新聞文化財団

後援:ドイツ連邦共和国大使館 / ドイツ学術交流会 (DAAD) / 日本バッハコンクール実行委員会

お問合せ:株式会社AMATI Tel.03-3560-3010 〒107-0052 東京都港区赤坂1-14-5-S201 <http://www.amati-tokyo.com>

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。やむを得ない事情により内容に変更が生じる場合がございますが、出演者、曲目変更などのために払い戻しはいたしませんので予めご了承願います。



ドイツと日本
Zukunft gestalten
ともに未来へ

人間の喜怒哀楽のすべてを表現するバッハのカンタータ。

その中から私が『新バッハ全集』のために校訂した4曲の傑作を集めました。

しめやかな157番は別として、神への感謝を歌い上げる117番と192番、そして華やかなフランス風序曲で始まる97番は、それぞれ単一のコーラルに基づきながら、神への信頼と生きる喜びを歌い上げています。

バッハのカンタータ創作の頂点がそこにあります(樋口隆一)

樋口隆一(指揮)

1946年、東京生まれ。音楽学者・指揮者。慶應義塾大学文学部卒、同大学院博士課程中退。ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生としてドイツ留学。バッハのカンタータに関する研究(『新バッハ全集』1/34)でチュービンゲン大学哲学博士。A.スムスキーに指揮法を師事し、シュトゥットガルト聖母マリア教会で合唱指揮者を務めた。帰国後、音楽学者、指揮者、評論家として多彩な活動を展開。M.ギーレン、若杉弘の助言を得て、1994年、指揮活動を再開。2000年、明治学院バッハ・アカデミーを設立し芸術監督に就任。2010年までは明治学院チャペル、その後はサントリーホールを中心に宗教音楽の傑作を次々に上演。2006年には、ライブツィヒ国際バッハ音楽祭に出演した。『バッハ』(新潮文庫)、『バッハ・カンタータ研究』(音楽之友社)、アーノンクール著『古楽とは何か』(共訳、音楽之友社)、『バッハの風景』(小学館)、『バッハの人生とカンタータ』(春秋社)ほか著書書多数。バッハ《マタイ受難曲・後期稿》(ユニバーサルミュージック)、フォーレ《レクイエム》(オクタヴィア・レコード)等のCDも話題を呼んでいる。現在、明治学院大学名誉教授。DAAD友の会会長。音楽三田会会長。1988年、京都音楽賞、1989年、辻荘一賞受賞。2002年、オーストリア学術芸術功労十字章受章。2015年、ドイツから第2回テオドル・ベルヒェム賞を受賞した。

光野孝子(ソプラノ)

鳥根大学教育学部特別音楽課程卒業。二期会オペラスタジオマスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。第5回藤沢オペラコンクール入選。二期会新進音楽家のタベ、二期会オペラスタジオ修了公演《チェッキーナはいい娘》チェッキーナ、墨田区民オペラ《ラ・ボエーム》ミミ、二期会公演《ヴァルキューレ》オルトリンデ、二期会新進オペラ公演《魔笛》パミーナ、新国立劇場公演《ローエングリン》8人の貴婦人、二期会新進オペラ公演《フィガロの結婚》伯爵夫人、荒川区民オペラ《カールメン》ミカエラ、二期会公演《エジプトのヘレナ》妖精、墨田区民オペラ《魔笛》パミーナ役などに出演。また大村恵美子氏訳詩による日本語で歌うバッハとの出会いにより、バッハを始めとする宗教曲に開眼し、東京バッハ合唱団、明治学院バッハ・アカデミー他、数多くの演奏会に出演している。2006年6月、樋口隆一指揮明治学院バッハ・アカデミーと出演したライブツィヒ国際バッハ音楽祭では、聖ニコライ教会でのカンタータ音楽礼拝でソプラノ・ソリストとして好評を博した。1997年文化庁芸術インターンシップ研修員。二期会会員。明治学院バッハ・アカデミーのCDでは「マリアの

祝日のためのカンタータ」、《ヨハネ受難曲》(第II稿)、《マタイ受難曲》(最終稿)、フォーレ《レクイエム》の独唱を担当している。

庄司祐美(メゾ・ソプラノ)

4歳よりピアノに親しむ。女子学院中学・高等学校で聖歌隊に所属。慶應義塾大学文学部心理専攻卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科に入学、同大学院独唱科博士後期課程修了。大学院在学中に藝大定期演奏会メンデルスゾーン《エアラ》(ゲルハルト・ボッセ指揮)ソリスト。シュトゥットガルト音楽大学でコンサート・リヒター氏のリートクラス修了。シュトゥットガルトのバッハ週間カンタータ演奏会、演出付《ヨハネ受難曲》、シャリーノ《ガラスの下の声》ソリスト。マックス・レーガーの歌曲演奏はSWRで放送された。帰国後は二期会《ジュリアス・シーザー》、《ワルキューレ》、二期会week inサントリーホール、オーチャードホール開館20周年記念ワグナー・ガラコンサートや《第九》、マラー《復活》、《大地の歌》に出演。2006年以来定期的にリサイタルを開催。その後も渡欧し、ペーター・シュライアー、ブリギッテ・ファスベンダー各氏のマスタークラスに参加。2010年ドイツ、ボンでのシューマン生誕200年記念リサイタルは現地新聞紙上に好評を得る。明治学院バッハ・アカデミーには2009年ヘンデル《メサイア》、2011年ブクステフーデ《われらがイエスの四肢》に出演。二期会会員。日本演奏連盟会員。

大島 博(テノール)

熊本県生まれ。中央大学法学部卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科に入学。渡辺高之助、高 文二、原田茂生、中山悌一の各氏に師事。同大学院在学中の86年、ミュンヘン音大に留学、エルンスト・ヘフリガーに学ぶ。90-91年D.フィッシャー＝ディースカウに師事。95年東京藝術大学大学院博士課程を修了。宗教曲の分野で、初期バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、とりわけバッハの受難曲における福音史家の演奏には定評がある。また、ドイツ・リート及び日本歌曲の演奏にも積極的に取り組んでおり、自主企画によるリサイタルに加えて各地での客演も数多い。96年からはくドイツ・リートのたのしみと題した、ドイツ歌曲を知るためのレクチャーを継続中。2004年からはシュベルトの「冬の旅」演奏会を毎年開催している。近年は、さらに合唱指揮者、発声指導者としても幅広く活動し、ドイツ詩の翻訳も手がける。立教大学大学院キリスト教学研究科特任教授。国立音楽大学非常勤講師。ジグアアカデミー東京主宰。

土田悠平(バリトン)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業時に同声会新人賞を受賞。卒業後、ウィーン・ブライナー音楽院へ3年間留学する。ブクステフーデ作曲《われらがイエスの四肢》にてソリストデビューし好評を博す。ドイツ歌曲、宗教曲を得意とする。小澤征爾、チョン・ミンフン、シャルル・デュワ氏ら指揮のもと、数々のオペラや演奏会に出演。アルメニア国主催の音楽祭に招致され、大臣より賞状や感謝状を受けるなど好評を博す。自身のソロリサイタル“Lieder Einladung”を7回開催。またウィーンでもソロリサイタルを開催。近年では歌曲『野ばら』の研究家として注目を浴びており、演奏の他、講演、企画も行っている。ヨーロッパを中心に、未発見とされる20曲の『野ばら』の楽譜収集に成功し、ニュース番組の特集やNHK『ラジオ深夜便』、日本経済新聞、毎日新聞などに取り上げられた。2018年には(公財)朝日新聞文化財団からの助成により「音楽劇コンサート『野ばら』の約束」を公演し好評を博した。CD-BOX及び楽譜集「『野ばら』111曲集」を出版。野ばらプロジェクト・エグゼクティブプロデューサー。http://nobara-project.com/

明治学院バッハ・アカデミー合奏団

2000年4月、樋口隆一(指揮)と神戸愉樹美、渡邊順生、渡邊慶子を中心に、わが国を代表する古楽器奏者を集めて結成された。練習から演奏へと一貫して行われる彼らの音楽造りは、研究と実践、身ぶりと言の対話によるワークショップであり、和やかな雰囲気の中に自発性を尊重した音楽が産み出される。

明治学院バッハ・アカデミー合唱団

明治学院バッハ・アカデミーは、バッハ没後250年を記念して2000年に設立された。芸術監督は樋口隆一。白金の明治学院チャペルを本拠に、2010年まで年間6回の定期演奏会を行ってきた。《マタイ受難曲》(初期稿)のCDは国際的にも注目を集め、それが2006年6月、ライブツィヒ国際バッハ音楽祭での招待演奏へとつながった。合唱団は、明治学院関係者にとどまらず東京周辺在住のバッハ好きたちによって結成され、毎週月曜の夜、島崎藤村も学んだ明治学院記念館で、樋口隆一の指導でバッハを歌っている。ポリフォニーの魅力を生かした清澄な合唱は高く評価されている。

(指揮・樋口隆一、副指揮・岡田章、発声指導・光野孝子、伴奏・栗島和子)

樋口隆一指揮 明治学院バッハ・アカデミーのCDが話題を呼んでいます。



バッハ《マタイ受難曲》

ジョン・エルウィス(福音史家・T)
河野克典(イエス・Bar)、光野孝子(S)
永島陽子(MS)、土田悠平(B)
2016年3月20日 東京・サントリーホールにて収録
CD MF22312/14 (3CD) 定価¥4,000+税
販売元:ユニバーサルミュージック合同会社IMS



フォーレ《レクイエム》

光野孝子(S)、河野克典(Bar)、椎名雄一郎(Org)
N響団友オーケストラ
2016年6月21日 東京・サントリーホールにて収録
CD OVCL-00617 定価¥2,700+税
発売・販売元:株式会社オクタヴィア・レコード



ベートーヴェン 《ミサ・ソレムニス》

鷲尾麻衣(ソプラノ)、寺谷千枝子(メゾ・ソプラノ)
ジョン・エルウィス(テノール)、河野克典(バリトン)
2017年10月9日 東京・サントリーホールにて収録
CD MF22315 定価¥2,800+税
販売元:ユニバーサルミュージック合同会社IMS



樋口隆一校訂 バッハ《カンタータ傑作集》

《神の時は最善の時なり》BWV106 他2曲
光野孝子(ソプラノ)、庄司祐美(メゾ・ソプラノ)
大島博(テノール)、土田悠平(バリトン)
2018年6月2日 東京・紀尾井ホール(ライブ)
CD MF22315 定価¥2,800+税
販売元:ユニバーサルミュージック合同会社IMS

最新
CD